

延暦寺は788年に最澄（767～822年）によって創建された。最澄は806年に天台仏教の教えを中国から伝えた。比叡山延暦寺は日本の最も重要な寺院のひとつであり、日本の仏教の宗派の多くが延暦寺で修行をした僧侶によって開創されている。の草創期、最澄の熱意とそれを継ぐ後継者たち。

今、最澄の願いは世界平和への取り組みとして未来へと力強く続いている。

比叡山の総本堂。

延暦4年（785）、二十歳となった最澄は東大寺で受戒する。奈良の都での栄達を捨て、人里離れた静寂の地で修行に励もうとこの山に籠った。徐々に最澄の噂を聞いて求道者が山に集まってくる。そして延暦7年（788）ここに自ら山の霊木で刻んだ薬師如来像を本尊として一乗止観院を建立。これが後の根本中堂となる。最澄が薬師如来像の前に灯じたともしびは、1200年以上を経た今も「不滅の法灯」として守られている。

比叡山の地を選んだことは思いがけない幸運であった。793年の平安遷都により、比叡山は鬼門とされる北東に位置することになったからだ。都に災いが訪れることを防ぐため、桓武天皇（781～806年）は延暦寺を国家守護の寺院と定め、国家の安泰と人々の平和を祈る読経や護摩を行うことを命じた。最澄の志を引き継ぎ、延暦寺では今日も人類や世界平和のための祈りの儀式が続けられている。

内陣が三メートル深く沈み込み石敷きの土間となっており、参拝者がお詣りをする外陣とご本尊様を祀りする宮殿が板敷で同じ高さになっているのが特徴で、私たち一人一人にも仏になる可能性があると言く天台仏教の教えをあらわしている。西塔の本堂、転法輪堂（釈迦堂）、及び横川の本堂、横川中堂（根本観音堂）も同じ様式で建てられている。

根本中堂では毎日、国家の安泰と人々の平和を祈る儀式が執り行われている。読経が唱えられ、祈りを書き記した護摩木を焚く護摩祈祷が行われる。